

# 安全大会報誌

安衛委 No132  
平成25年4月22日  
安全衛生推進委員会

## 平成二十五年度 安全大会

今年の安全大会は、四月十九日大越公民館で、開催されました。

社長より、建設業における労働災害は平成二十三年の死亡災害が過去最少となり、東日本大震災後死亡災害が増加するなど、極めて憂慮すべき状況にあります。

一方、東日本大震災を始め、台風豪雨などの自然災害が多発しているため、復旧復興に建設業がいかに重要な役割を果たしているか再認識されているところであり、今後は社会基盤のメンテナンスに係る工事が増加するものと見込まれるが、労働者不足や若年者の入職減少により、技能技術の伝承、技術者の確保を取り組んでいかなければならない。労働災害の防止は人命尊重の観点からもとより、建設業が我が国の基幹産業として健全な発展を続けるために不可欠な



要件であり、今までにまして効果的な労働災害防止対策を取り組んで行きたいと挨拶がありました。続きまして、勤続表彰で、斉藤武司さんが三十年、酒井高志さんが二十年と永年に渡り会社に貢献して頂きました。安全標語は、四十人から七十四点の応募があり最優秀賞に柏原利美さんの「危ない

ぞ！」注意するのも思いやり初心に戻って安全確認、優秀賞に遠藤紀夫さんの「見た、聞いた、すぐ直すぞ、危険箇所」石井徹さんの「再チェックリスク減らしてゼロ災害」武田雅章さんの「立場の違いを越えて安全最優先」が選ばれ受賞しました。無事故無違反表彰では、武田元志さん三十年、会田貞二さん二十年で受賞しました。現場体験談では、渡辺敏夫さんが擁壁の掘削をバックホウで掘削中足元を掘りすぎて倒れる寸前になったこと、構造物を吊っているとき滑って外れそうになったこと、ワイヤーが切れて吊り荷が落ちそうになったこと、架空線が見えなくて引っかけそうになったこと、地下埋設物がわからず壊しそうになったこと等話して頂きました。講演では、福島県社会保険協会の保健師植松みち子先生が「生活習慣病を予防する」と題して講演をして頂きました。

生活習慣病は予防できるので、かからないでほしい。健康診断の結果少しだけ高いだけが積み重なったり、生活習慣で過食・偏食、運動不足、多量飲酒、喫煙、疲労・ストレスが積み重なっていくと、六割の方が生活習慣病で亡くなっています。生活習慣病で怖いのが、脳卒中、心臓病、糖尿病の合併症、骨折がんであり、がんで男女とも一番多いのが肺がんです。介護が必要となるのが脳卒中であり、男性は右側が麻痺しやすいし、女性は左側が麻痺するのが多い、大半の人は右利きが多いため、男性は介護が必要になり、女性は右が使えるため、男性ほど不自由なく生活ができるため、環境に適応しやすいようです。子供に迷惑をかけないで生きていくには、生活習慣病をなくし、子供に負担をかけないようにする。アルコールはだめではないが、飲み過ぎるため、食欲を増すため、適量に食べる特にカルシウムを摂るように。集中できない、ストレスや疲労は上手に解消して、

